

活用事例：三重県名張市

※ 本資料に記載の事例は、ワークブックの作成等を目的として内閣官房が2023年度に行った調査研究事業に参加したモデル地方公共団体が実践した「地域アプローチ」による取組の内容を、全国の地方公共団体がワークブックを活用する際の参考とすることを目的として編纂したものです。

本資料に記載の内容については、あくまで上記の目的に基づくものであり、当該地方公共団体の今後の検討方針について定めたものではありませんので、ご理解の上でご活用ください。

少子化対策地域評価ツール ワークブック

団体名：三重県名張市

作成者：政策企画部政策企画課 等

活動時期：2022年5月～2023年3月

地域の実情に応じた “オーダーメイド型”
の少子化対策の実践に向けて

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

プロジェクトチームの構築

- ✓ 「地域アプローチ」による取組のプロジェクトメンバーを一覧にしてまとめる。中心となる事務局（コアメンバー）が誰かを明確に整理しておく
- ✓ 本シートは、各STEPの検討を経て協力者・関係者が増えるごとに更新を行う

所属	部署名	役職	氏名	リーダー
名張市（事務局）	地域活力創生室	主任		○
〃	〃	係長		
〃	〃	室長		
名張市	産業部商工経済室（雇用関連）	主任		
名張市	健康・子育て支援室（子育て関連）	主査		
名張市	地域環境部地域経営室（地域づくり関係）	主任		
名張市	秘書広報室（シティプロモーション関連）	主任		
名張市	若手職員プロジェクトチーム			
地域おこし協力隊	移住者・子育てパパ			
（一社）つなぐ	大学生、テレワーク施設			
名張市経済好循環推進協議会OB	子育てママの雇用創出			
（一社）滝川YORIAI	まちづくり・大学生・観光			

既存事業の棚卸し

- ✓ 地方公共団体で行う少子化対策の取組をライフステージごとの施策一覧に整理するため、本シートを使って個別事業の情報を収集する
- ✓ 本シートを各関係部署に配布し、記載を依頼することで作成する。既存の実施策シートや事業評価シートがあればそれを代用することも可能

①少子化対策に関する名張市の課題意識【担当部局へヒアリングを実施】

【全体】

- ネウボラなど**子育て支援・教育に注力**してきた中、R2の**合計特殊出生率が1.24と年々低下**しているのはなぜか。

【子育て支援部局】

- 本市でも**近年出生数が大きく減少**している。（平成25年682人⇒令和3年446人）35%減少
- 隣の**伊賀市の出生数はそこまで大きく減っていない**。（平成25年643人⇒令和2年496人）
- 近年は妊娠届出時の際に**妊婦から経済困窮の話**を多く聞くようになった。
- **核家族が多いため**、夫の育児参加が重要であるが、**通勤時間も長く育児に掛ける時間が短い**。
- 一人親もかつては少数であったが、近年はかなり増えてきた。
- ドゥーラ（産後ママの身の回りをサポートする人）を活用したい、ドゥーラの利用時の補助がないかという話もある。

【子育て支援部局（まちの保健室）】

- **中高生のうちから、イクメン（父親の育児参加）の大切さ、素晴らしさを伝える機会**が必要。
- **パパの育児教室参加促進のためにインセンティブ**を与えるのはどうか。（例えば、育児教室に参加すれば、〇〇の予防接種の自己負担額に一部補助を出すなど）
- 民間事業者がかつて家事支援サービスをしていたが、今はない。名張は通勤時間に時間がかかり、夕方の家事（子どもの習い事の送迎、食事など）が忙しい時間帯に夫がいないことが多い。家事支援サービスがあれば、例えば、名張市の地域力を生かして、各地域である**有償ボランティアによる生活支援サービス**が高齢者を中心に提供されているが、これの**子育て世帯版（全世代型）生活支援サービス**を作れないか。ファミリーサポートセンター制度もあるが、単価が高い。
- コミュニティバスも子どもが乗りやすい時間帯に設定することで、**親の送迎負担を軽減**できるのではないかと。
- 市外に転出した人から、「名張市の子育て支援サービスは充実していた」という話を時々聞く。市内に住んでいると当たり前のように感じていることが多いが、実はそうではない。そういった**市外に転出した人からの声を聞く**のも必要ではないか。
- 0～2歳の待機児童対策を実施してきたことにより、以前より、未就園児が主に参加する子育て広場の参加する子どもの年齢が下がってきた。「働くパパ、子育てをするママ」への支援というより、「**働きながら子育てをするパパ、ママ**」への支援が必要では。

【保育所・幼稚園部局】

- 近年は少子化、0～2歳対象の施設整備を進めてきたことと、コロナによる利用控えもあり、**待機児童は4月時点ではゼロ**。
- 保護者からは、**保育料の軽減**やご飯や布団など**保護者が用意しないといけないものを保育所で対応してほしい**、**親の通勤に便利な場所にある園に預けたい**、**市内の公園遊具が少ない・駐車場がない**といった声がある。
- 中学生の職場体験では**男子中学生からも保育現場体験が人気**。

既存事業の棚卸し

- ✓ 地方公共団体で行う少子化対策の取組をライフステージごとの施策一覧に整理するため、本シートを使って個別事業の情報を収集する
- ✓ 本シートを各関係部署に配布し、記載を依頼することで作成する。既存の実施策シートや事業評価シートがあればそれを代用することも可能

①少子化対策に関する名張市の課題意識【担当部局へヒアリングを実施】

【雇用部局】

- **働きたいけど働ける場所がない。育児等ワークライフバランスに対し理解のある企業はまだまだ少ない。**
- 求人を出すほどでない**単発な仕事の需要が潜在的**にあるのではないか。
- **隙間時間で働くような働き方もニーズがある**のではないか。⇒岡山県奈義町の「しごとコンビニ」の取組。
- 近大高専との連携は重要。市内就職を促進するために、昨年、**近大高専生と近大高専OBで市内企業で就労している方との座談会**を実施し、好評であった。引き続き実施した方が良い。
- 市内の**雇用の需要としては介護分野**が多い。
- 昨年度まで**子育てママの就労支援**（名張市雇用創造協議会、名張市産業チャレンジ支援協議会、名張市経済好循環推進協議会）として、育児をしながら仕事ができる柔軟な働き方として、**在宅ワークのスキル取得**のためのセミナー（イラストレーター、カメラ、ライティングなど）を実施してきた。しかし、生業として独立していくには、まだまだ**スキルの面でのサポートが必要**。
- 上記のように子育てママの雇用創出については、課題があるものの、それを**支援していく団体**（名張市経済好循環推進協議会）が**交付金終了とともに解散した**ことから、十分な支援体制ではない。（R4からは、セカンドキャリアや事業承継に注力し、新たな協議会を立ち上げ事業を実施していく予定。）

【男女共同参画部局】

- 育児等ワークライフバランスに対し理解のある企業はまだまだ少ない。
- 平成29年に行った「まちじゅう元気！イクボス宣言なばり」に賛同いただいた事業所に対し、本年度**ワークライフバランスに関するアンケート**を実施予定。
- 市内事業所を対象とした**ワークライフバランス、男女共同参画をテーマとした講演**を実施予定。

実施計画の策定

- ✓ 「地域アプローチ」による検討の内容を明確にしつつ進捗確認を行うため、今年度達成したいこととそのために必要な調査や取組の予定を記載する

●達成したい目標

2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子化対策に向けた横断体制の構築 ✓ 本市の強み・弱みまたその要因の明確化 ✓ 課題分析を踏まえた効果的な事業の立案・実行
2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2022年度に検討・実行した事業の継続・改善 ✓ その他、「地域アプローチ」を通じて策定した事業の実施、既存事業の改善
2024年度～ (将来)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「地域アプローチ」を通じて策定した事業の実施、既存事業の改善

●具体的なスケジュール

時期	6月（キックオフ）	7/14	7月～9月	10/28
到達目標 (マイルストーン)	◎ 当該モデル事業に関するメンバー間の認識の共有を図る。	◎ STEP2 客観的指標の分析による地域特性の見える化	◎ STEP3 主観調査による地域特性の把握	◎ STEP4 地域の強み・課題の分析
実施内容 (予定)	■ 「地域アプローチ」の概要、R4モデル事業の概要のゴール、スケジュールに関する説明	■ R2モデル事業で得た地域特性や新たな情報による地域特性の把握分析・仮説及び検証方法の設定	■ 事務局にて、仮説に基づく検証に関連する情報収集を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮説の検証結果に基づき、整理した地域特性、そこから想定されるペルソナ像をメンバーで認識共有 ■ ペルソナが抱える課題の深掘りと解決に向けたアイデア、活用できる地域資源の洗い出しを行う。
市町村WS（予定）	キックオフ	○		○
都道府県WS（予定）				

時期	11/7	11/28	12/27	1月～3月
到達目標 (マイルストーン)	◎ STEP5 対応策の検討	◎ STEP5 対応策の検討	◎ STEP5 対応策の検討	◎ STEP5 対応策の検討 ◎ STEP6 対応策の実行
実施内容 (予定)	■ 既存事業等を確認しながら対応策案の具体化①	■ 既存事業等を確認しながら対応策案の具体化②	■ 対応策の具体化①	<ul style="list-style-type: none"> ■ 対応策の具体化② ⇒既存事業の改善 ⇒新規事業の立案 内容に応じ、今年度内に取り組めるものは取り組み、次年度に取り組むものは企画立案まで行う。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 試験的に事業実施を行ったものは評価等を行い、ブラッシュアップを行う。 ■ 随時、WSで企画立案等を行う。
市町村WS（予定）	○	○	○	○
都道府県WS（予定）				

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

出生に関連する指標の特徴をまとめる

- ✓ 出生に関連する指標と地域の様々な指標との関係性について整理して、少子化の要因仮説の立案につなげていくために、まずは出生に関連する指標の特徴について細分化した上でその特徴（地域別・属性別・時系列別等）を書き出す

赤字、下線部分は7/14WS後、事務局で加筆したもの

「・」 事務局があらかじめ記載したコメント
「☆」 7/14WSで出た意見

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較 全国約1,700の自治体との比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ
有配偶率	<p>【未婚率】(H27) 男性46.9%/402位 女性35.3%/765位 ⇒未婚の人が多いわけではない。</p> <p>【初婚年齢】(H30) 男性30.5歳/652位 女性28.6歳/477位 ⇒初婚年齢も決して高いわけではない。</p> <p>【出生順位ごとの母の平均年齢】(H30) 第1子30.3歳/1,053位 第2子31.9歳/ 714位 第3子33.9歳/1,107位 ⇒第1子、第3子時の母の平均年齢は高い。 母の年齢は第1子、第3子が平均より高いが、出生率は第1子、第3子は平均より高い。</p>	<p>☆ 初婚年齢は極端に早い人、晩婚の人など2極化しているのではないかと。</p> <p>☆ 初婚から第1子出産まで期間が空いているのは新婚生活を楽しまたいとか、結婚の際に資金を使ったので出産に向けて貯蓄したいとかでは。</p> <p>☆ 遊ぶ機会や場所がないことが早婚につながっているのでは。</p> <p>☆ 若い女性はどのような職種についているのか、結婚・子育てしにくい職業なのでは。産休・育休後に復帰できるような職種が少ないのでは。</p> <p>☆ 1人目帝王切開の場合、3人目は市内で産めないと聞く⇒最近では解消しているよう。</p> <p>☆ 第1子の出産年齢により、その後の出産できる人数に影響される。(高齢出産のリスク)</p> <p>☆ 名張市の有配偶率が都市部に比べて高いのは、若年層の転出により人口総数が少ないため分母が少なくなるので割合が高くなるのではないかと。</p> <p>☆ 学校卒業後に地元で就職する層は、交友関係などが市内で完結してしまうので、学校卒業、就職、結婚とスムーズな流れになるのでは。 就職する年齢が早いと結婚する年齢も早くなる。 ⇒高校卒業後にすぐに働くことで、収入も得られて結婚する意識が高くなる ⇒就職して収入を得ることで、結婚後の生活のイメージができる ⇒まわりの既婚者の影響 若い年齢で結婚する決め手は「勢い」や「感情」 ⇒悩む前に結婚する ⇒子どもが出来たことがきっかけ</p>	<p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p>
	<p>2人目を産む時のハードル</p> <p>・初婚年齢から第1子出産時までに間が空いている傾向。第1子出産が遅くなればなるほど、2人目、3人目を産む確率は下がってくる。</p> <p>・2人目の出生率の低さ</p>		
合計特殊出生率／有配偶出生率	<p>一人目</p> <p>・0.65/705位 (H30) ⇒初婚年齢は平均より若い、しかし第1子出産時の母の年齢は平均以上。＝結婚してから1人を出産するまでの期間が長い。でも結局産んでいる。</p>	<p>・1人目を産む時のハードルがあるのでは。(経済、子育て環境など)でも、年齢が経つとそのハードルが解消している？(収入が安定してくるなど)</p> <p>・2人目を産む時のハードルがある？</p> <p>☆ 出産・子育てに関する制度や費用のことについて、知らない人が多いのでは。</p> <p>☆ 「第1子のために兄弟が欲しい」という気持ちから第2子出産のハードルは低い</p> <p>・2人の子を持った家族が名張市に転入し、3人目を産んでいる？(2人目から3人目への支援を強化した名張版ネウボラの成果？3人目を産むために持ち家のニーズが高くなり名張市へ移住?)⇒35～39歳の転入者の多さ。</p> <p>☆ 子どもは2人いればよいという気持ちがある。</p> <p>☆ 子育て費がかかる</p> <p>☆ 年齢的に厳しい。</p>	<p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p> <p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p> <p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p>
	<p>二人目</p> <p>・0.52/1,121位 (H30) ※0.58/655位 (H25) ⇒平均より低い。2人目は産みにくい？でも2人目を産む時の母親の平均年齢は若い、かつ3人目の出生率は平均以上。5年前と比較して出生率は低下。</p>		
	<p>三人以上</p> <p>・0.31/845位 (H30) ※0.23/1,316位 (H25) ⇒第3子出産時の母親の年齢は、平均より高いが出生率は平均より高い。5年前と比較して出生率は上昇。</p> <p>出生数に占める第3子以降の割合</p> <p>・20.7%/840位 (H30) 16.1%/1,335位 (H25) ⇒第3子以降の出生が増えている。</p>		
転出入	<p>若年層</p> <p><転入超過(転入者－転出者)数(日本人のみ)>(R1) 【男】 ・15～19歳 4人/ 310位 ▲36人/1,507位(H28) ・20～24歳 ▲107人/1,626位 【女】 ・15～19歳 ▲18人/1,311位 ▲15人/1,226位(H28) ・20～24歳 ▲93人/1,537位</p>	<p>・転入超過の要因は、進学・就職・結婚か。</p> <p>・15～19歳の男の転入超過の要因は、近大高専入学に伴う転入か。</p> <p>・転入元は伊賀市が多い。</p> <p>・転出先は大阪府が多い。</p> <p>☆ 名張から出ると、名張の就職に関する情報が入ってこない</p> <p>☆ 伊賀市から来るのは、近鉄線などの利便性では。</p>	<p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p> <p>・名張市の人口等の動き</p> <p>市外に出ると名張の就職情報が入ってこない</p>
	<p>子育て世代</p> <p><転入超過(転入者－転出者)数(日本人のみ)>(R1) 【男】 ・25～29歳 ▲53人/1,607位 ・30～34歳 ▲2人/ 827位 ▲8人/1,267位(H28) ・35～39歳 21人/ 150位 1人/ 677位(H28) 【女】 ・25～29歳 ▲36人/1,494位 ・30～34歳 ▲36人/1,640位 ・35～39歳 1人/ 589位 ▲13人/1,542位(H28)</p>	<p>・25～29歳は、就職・結婚での転出と考えられる。</p> <p>・35～39歳は男女とも転入超過。子育てする目的等で本市へ移住？</p> <p>・転入元は伊賀市が多い。</p> <p>・転出先は大阪府が多い。</p> <p>☆ 35～39歳の転入が多いのは、子育てにおいて居住環境を整える(住宅購入)の時期で名張に転入してくるのでは。</p> <p>☆ 名張市で育て、進学で一度出ていったけど「名張(実家の近く)で子育て」がしたくて戻ってくる人が多いのではないかと</p>	<p>・地域少子化・働き方指標（第4版）</p> <p>・名張市の人口等の動き</p>

2人の子どもを持った家族が転入している？

地域の様々な指標を見て、地域の特徴を考察する

- ✓ 地域評価指標のひな型等を参考に、出生に関連する指標に影響を与えとされる地域の様々な指標の特徴と、そこから考えられることを記載する

分野	わがまちの特徴 (地域評価指標のひな型より)	考察 (特徴から考えられることを記載)
<p>賑わい・生活環境</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型小売店数 (人口1万人当たり) 56.9 人口1万人当たり医薬品・化粧品小売り業事業所数 46.7 人口1万人当たり飲食店事業所数 45.0 人口1万人当たり娯楽業事業所数 43.0 コンビニ店舗数 (人口1万人当たり) 63.0 自然公園面積 (人口比) 44.0 15-18歳人口1万人あたりの全日制・定時制高校の学校数 46.5 都市公園等の面積 (人口比) 47.8 50.9 	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園は多いが、自然公園面積は少ない。 ⇒ 子どもの遊び場としては足りているのか。 全日制、定時制高校の学校数は平均より少ないが、R4.4より旧桔梗が丘中学校に英心高校桔梗が丘校が開校。 ☆ 実際に遊べる公園が少ない。(地域での偏りや草刈りなどの管理に課題) ☆ 都市公園の面積が平均より広いとなっているが、大きい魅力的な公園がない。公園の遊具が少ない。駐車場がなく利用しにくい。 ☆ 雨の日に遊べる場所がない ☆ 若者は遊べる場所を求めている ☆ 保育所・幼稚園から帰った後、みんなで遊ぶ習慣がない。 ⇒ 保護者同士のつながりが少ないのでは？
<p>家族・生活</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <ul style="list-style-type: none"> 3世代同居率 (一般世帯数に占める3世代世帯の比率) 11.0 持ち家世帯率 (世帯主15-64歳) 43.2 住宅延べ面積 (100㎡以上の割合) 56.9 一戸建て比率 (全世帯) 46.2 45.4 60.5 50.8 	<ul style="list-style-type: none"> 3世代同居率が低い。⇒子育てに関する負担が大きい。(頼れる親族が少ない？同居はしていないが、近居の場合もあるのではないかと) ⇒同居をしないという選択肢が選びやすい？(土地、空き家取得しやす など) ☆ 同居は少ないが近居も多いのでは。 ⇒同居より暮らしやすい。 ☆ 3世代同居を避けることを目的に名張に転入しているケースもあるのでは。 ☆ 名張は同居より夫婦・親ともに負担の少ない「近居」が選びやすい環境にあるのではないかと。 ⇒近居が叶うまちとして、市外からの近居 (Uターン) 促進の施策を推進するのはどうか。
<p>地域・コミュニティ</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近にいる子ども数 (0-17歳人口密度) 56.6 0-17歳人口1万人あたりの子供健全育成NPO数 48.1 61.9 42.7 51.2 40.4 54.4 53.4 47.2 30 	<ul style="list-style-type: none"> 「身近にいる子ども数」は名張市がコンパクトシティであることからか。 空き家率は高い。一方で土地の価格は、ベッドタウンのような類似市に比較すると安く、取得しやすい。 ☆ 空き家対策として、高知県梶原町のような施策ができないか。名張であれば、人材が豊富なので、独自の施策を打てる気がする ☆ 水回りの改修費用への支援を手厚くした方が良いのではないかと。 ☆ 空き家率が高いことで、物件が豊富にあるという強みにかえて、リノベーションで住みやすい物件が手に入ることをもっと売り出しているかどうか。 ⇒空き家リノベーション補助金の充実

地域の様々な指標を見て、地域の特徴を考察する

分野	わがまちの特徴（事実を記載）	考察（特徴から考えられることを記載）
<p>医療・保健環境</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <p>保健師数(人口1万人当たり) 45.7 45.7 45.7</p> <p>0-9歳人口1万人当たり小児科医師数(主たる診療科) 48.0 48.0 48.0</p> <p>20-44歳女性人口1万人当たり産婦人科医師数(主たる診療科) 43.1 43.1 43.1</p>	
<p>子育て支援サービス</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <p>0-2歳人口1万人当たり地域子育て支援拠点数 48.1 48.1 48.1</p> <p>0-5歳人口1万人当たり保育所等利用児童割合(0-5歳人口比) 56.8 56.8 56.8</p> <p>0-5歳人口1000人当たり待機児童数 51.3 51.3 51.3</p> <p>0-17歳人口1万人あたり障害児入所施設、児童発達支援センターの施設数 60.1 60.1 60.1</p> <p>0-12歳人口1万人あたりファミリーサポートセンター数 42.0 42.0 42.0</p> <p>61.3 放課後児童クラブ登録児童割合(小学校児童数当たり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 名張市子ども発達支援センターは、発達が気になる児童生徒へのサポートが充実しており、この支援を求めて本市へ移住する方も多い。(移住施策を通じた本市への移住者のうち、約4割を占める。) 放課後児童クラブは全小学校に整備済。 発達障害などへの支援が充実していて、それを理由に他市から移住してくることは強み。ただ、そういった支援が必要な子どもが増えていくことへの対応も合わせていかなければならない。 学童保育の利用料が高いのがネック。 ファミリーサポートは、他人(初めての人、知らない人)に我が子の面倒を見てもらうことに抵抗があるのでは。
<p>働き方・男女共同参画</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <p>通勤時間(家計を主に支える者、中位数) 52.9 52.9 52.9</p> <p>女性労働力率(20-44歳) 47.4 47.4 47.4</p> <p>女性第3次産業従事者割合(20-44歳) 51.7 51.7 51.7</p> <p>55.0 管理的職業従事者に占める女性の割合</p> <p>50.9 市町村議会議員に占める女性の割合</p> <p>44.8 防火会議の構成員に占める女性の割合</p> <p>50.9 くろみん認定企業割合(資本金5千万円を超える企業数比)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間は平均より長い。⇒子育てに係る時間が短いのではない。帰宅時間は、19時台、20時台が多い。 女性労働力率が低い。⇒働くところがない？働かなくても生活できている？ 女性第3次産業従事割合が低い。⇒本市は第2次産業が中心のためか。 大阪への通勤より伊賀への通勤の方が多くなっていることから、通勤時間も短くなっているのではないか。 電車通勤の人は、自宅から駅までの時間もかかるから通勤時間が長くなっているのでは。 名張はまだまだ昔ながらの男性は外で仕事、女性は家事という考えも残っているのではないか。 就職先がない。希望する職種がない。
<p>経済雇用</p>	<p>県下市町村平均 名張市 伊賀市</p> <p>昼夜間人口比 70.63.0 70.63.0 70.63.0</p> <p>完全失業率(20-44歳) 46.6 46.6 46.6</p> <p>男女別正規雇用者比率(女性) 54.4 54.4 54.4</p> <p>男女別正規雇用者比率(男性) 47.8 47.8 47.8</p> <p>47.8 課税対象所得(納税義務者1人当たり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昼夜間人口比が低い。(夜より昼間の人口が少ない。) ⇒市外から名張市に勤めに来る人が少ない。 ⇒名張市で住んで、仕事は市外に出る人が多い。(暮らしのまち) ⇒そもそも市内企業がありません。 正規雇用率が男女とも低い。 医療・福祉の分野は人材不足。ただ、資格が必要な職種が多いため、成人してから資格を取り、就職するのは難しい。 正規雇用率が低いこと＝悪いことではない。フリーランスであれば、自身がやりたいことが生業として成立し、暮らしができていれば、むしろ暮らしの満足度は高い。多様な働き方。名張の地ではそういったフリーランスを育てる施策に注力するのが良いのではないかと。子育てとの両立もしやすい。 徳島県神山町では、光回線を町全体に張り巡らせ、サテライトオフィスが多く進出している。起業家を養成する学校もある。こういう事例も名張でできないか。 市内の就職先を探そうと、就職説明会に参加したいが新卒者向けが少ない。 ⇒就職説明会に参加する学生が少ない。集まらない。 学生に届いていない。 就職先がないわけではない。優良な会社が知られていない

地域の様々な指標を踏まえて要因仮説を検討する

- ✓ 地域の様々な指標の特徴を整理した上で、出生に関連する指標の特徴につながっている要因仮説は何かを検討して記載する

※STEP2-1を再掲

赤字、下線部分は7/14WS後、事務局で加筆したもの

「・」 事務局があらかじめ記載したコメント
「☆」 7/14WSで出た意見

出生に関連する指標	出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較 全国約1,700の自治体との比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説	参照したデータ
有配偶率	<p>【未婚率】(H27) 男性46.9%/402位 女性35.3%/765位 ⇒未婚の人が多いわけではない。</p> <p>【初婚年齢】(H30) 男性30.5歳/652位 女性28.6歳/477位 ⇒初婚年齢も決して高いわけではない。</p> <p>【出生順位ごとの母の平均年齢】(H30) 第1子30.3歳/1,053位 第2子31.9歳/ 714位 第3子33.9歳/1,107位 ⇒第1子、第3子時の母の平均年齢は高い。 母の年齢は第1子、第3子が平均より高いが、出生率は第1子、第3子は平均より高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 初婚年齢は極端に早い人、晩婚の人など2極化しているのではないかと。 ☆ 初婚から第1子出産まで期間が空いているのは新婚生活を楽しまたいとか、結婚の際に資金を使ったので出産に向けて貯蓄したいとかでは。 ☆ 遊ぶ機会や場所がないことが早婚につながっているのでは。 ☆ 若い女性はどのような職種についているのか、結婚・子育てしにくい職業なのでは。産休・育休後に復帰できるような職種が少ないのでは。 ☆ 1人目帝王切開の場合、3人目は市内で産めないと聞く⇒最近では解消しているよう。 ☆ 第1子の出産年齢により、その後の出産できる人数に影響される。(高齢出産のリスク) ☆ 名張市の有配偶率が都市部に比べて高いのは、若年層の転出により人口総数が少ないため分母が少なくなるので割合が高くなるのではないかと。 ☆ 学校卒業後に地元で就職する層は、交友関係などが市内で完結してしまうので、学校卒業、就職、結婚とスムーズな流れになるのでは。 就職する年齢が早いと結婚する年齢も早くなる。 ⇒高校卒業後にすぐに働くことで、収入も得られて結婚する意識が高くなる ⇒就職して収入を得ることで、結婚後の生活のイメージができる ⇒まわりの既婚者の影響 若い年齢で結婚する決め手は「勢い」や「感情」 ⇒悩む前に結婚する ⇒子どもが出来たことがきっかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版)
	<p>2人目を産む時のハードル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初婚年齢から第1子出産時までに間が空いている傾向。第1子出産が遅くなればなるほど、2人目、3人目を産む確率は下がってくる。 ・2人目の出生率の低さ 		
合計特殊出生率／有配偶出生率	<p>一人目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.65/705位 (H30) ⇒初婚年齢は平均より若い、しかし第1子出産時の母の年齢は平均以上。＝結婚してから1人を出産するまでの期間が長い。でも結局産んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人目を産む時のハードルがあるのでは。(経済、子育て環境など)でも、年齢が経つとそのハードルが解消している？(収入が安定してくるなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版)
	<p>二人目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.52/1,121位 (H30) ※0.58/655位 (H25) ⇒平均より低い。2人目は産みにくい？でも2人目を産む時の母親の平均年齢は若い、かつ3人目の出生率は平均以上。5年前と比較して出生率は低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人目を産む時のハードルがある？ ☆ 出産・子育てに関する制度や費用のことについて、知らない人が多いのでは。 ☆ 「第1子のために兄兄弟が欲しい」という気持ちから第2子出産のハードルは低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版)
	<p>三人以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.31/845位 (H30) ※0.23/1,316位 (H25) ⇒第3子出産時の母親の年齢は、平均より高いが出生率は平均より高い。5年前と比較して出生率は上昇。 出生数に占める第3子以降の割合 ・20.7%/840位 (H30) 16.1%/1,335位 (H25) ⇒第3子以降の出生が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の子を持った家族が名張市に転入し、3人目を産んでいる？(2人目から3人目への支援を強化した名張版ネウボラの成果？3人目を産むために持ち家のニーズが高くなり名張市へ移住？)⇒35～39歳の転入者の多さ。 ☆ 子どもは2人いればよいという気持ちがある。 ☆ 子育て費がかかる ☆ 年齢的に厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版)
転出入	<p>若年層</p> <p><転入超過(転入者－転出者)数(日本人のみ)> (R1)</p> <p>【男】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15～19歳 4人/ 310位 ▲36人/1,507位(H28) ・20～24歳 ▲107人/1,626位 <p>【女】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15～19歳 ▲18人/1,311位 ▲15人/1,226位(H28) ・20～24歳 ▲93人/1,537位 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入超過の要因は、進学・就職・結婚か。 ・15～19歳の男の転入超過の要因は、近大高専入学に伴う転入か。 ・転入元は伊賀市が多い。 ・転出先は大阪府が多い。 ☆ 名張から出ると、名張の就職に関する情報が入ってこない ☆ 伊賀市から来るのは、近鉄線などの利便性では。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版) ・名張市の人口等の動き
	<p>子育て世代</p> <p><転入超過(転入者－転出者)数(日本人のみ)> (R1)</p> <p>【男】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25～29歳 ▲53人/1,607位 ・30～34歳 ▲2人/ 827位 ▲8人/1,267位(H28) ・35～39歳 21人/ 150位 1人/ 677位(H28) <p>【女】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25～29歳 ▲36人/1,494位 ・30～34歳 ▲36人/1,640位 ・35～39歳 1人/ 589位 ▲13人/1,542位(H28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・25～29歳は、就職・結婚での転出と考えられる。 ・35～39歳は男女とも転入超過。子育てする目的等で本市へ移住？ ・転入元は伊賀市が多い。 ・転出先は大阪府が多い。 ☆ 35～39歳の転入が多いのは、子育てにおいて居住環境を整える(住宅購入)の時期で名張に転入してくるのでは。 ☆ 名張市で育て、進学で一度出ていったけど「名張(実家の近く)で子育て」がしたくて戻ってくる人が多いのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域少子化・働き方指標 (第4版) ・名張市の人口等の動き

2人の子どもを持った
家族が転入している？

STEP 3 主観調査による地域特性の把握

要因仮説を踏まえた調査内容の検討

- ✓ STEP2で検討した仮説を踏まえて、調査と仮説との関係性に関するねらいをつけ、調査の内容や協力者、時期を整理する

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容	協力者	実施 時期	担当者
例	Uターン者に対する支援が足りないので平均子ども数も市全体に比べ低くなっているのではないか	Uターン子持ち世帯のUターン理由、ハードル、ハードルを乗り越えた方法	移住相談窓口 地域の不動産屋	●月頃	子育て支援課
1	第3子の出生率が高く、第2子の出生率が低いのは2人の子を持った家族が名張市に転入し、3人目を産んでいるケースが多いからではないか	<p><2人の子どもを持った世帯が転入しているケースの検証> 【既存データ】 住基データによる転入時の子どもの人数の推移（H25～の推移）</p> <p>※把握は困難。</p> <p><2人の子どもを持った世帯が転入し、名張市で3人目を出生しているケースの検証> 【既存データ】 妊娠届のデータなどから確認</p> <p>※妊娠届のデータなどからは把握は困難。</p>	市戸籍担当部署		地域活力創 生室
2	社会減の大部分を占める若年層が市外へ転出した後に名張に帰ってこない一因は、名張の就職情報が手に入りにくいからではないか。	<p>【追加調査】 <調査内容> 名張市（名張市を含めた名張近郊エリア）の就職情報は手に入るかどうか <調査方法> 市内出身の大学生に対しヒアリング</p>	市内出身の大学生	10月	地域活力創 生室
3	女性の労働力の低さが、世帯収入の低さにつながり、経済的な理由から多子世帯の持ちにくさにつながる可能性がある中で、労働力の低さの要因として、名張市に住む女性にとって働く場所が少ない（働きたいけど、働く場所がない。）、もしくは就労意欲がそもそもないが低いのではないか。	<p>【追加調査】 <調査内容> 求職者（女性）の状況 <調査方法> 職業安定所（ハローワーク）へのヒアリング</p>	ハローワークプラザ名張	9月	地域活力創 生室

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	職業安定所（ハローワーク）へのヒアリング
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	女性の労働力の低さが、世帯収入の低さにつながり、経済的な理由から多子世帯の持ちにくさにつながる可能性がある中で、労働力の低さの要因として、名張市に住む女性にとって働く場所が少ない（働きたいけど、働く場所がない。）、もしくは就労意欲がそもそもないか低いのではないか。
	対象	ハローワークプラザ名張
	実施時期	9/22
	調査方法	ハローワークプラザ名張内にある子育て中の女性就労担当職員へのヒアリング（対面）
	調査項目	市内の就労状況や求職状況について
調査結果概要	<p><仮説の検証結果> 【以下ヒアリング結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統計データでは男女とも正規雇用率が低いとなっているが、要因はあまり分からない。 ● 名張市は伊賀市に比べ事業所数は半数程度。 ● 就労の相談については、コロナの影響もあり減少傾向、R元比7割程度となっている。就職率も同様に下がっている。 ● コロナ禍において、仕事を辞めない人が増えた。また、コロナの影響を受けにくい、小規模事業所への就労が増えている。 ● 希望職種は過去からも事務職が多い（8割程度） ● 名張は就労を希望する女性が多いと思う。就労せず、家庭で育児のみの生活よりかは、就労し、子どもを保育所等に預け、仕事の休みの時などに自分の時間を作るなど「個」の時間を大切にしているのではないか。 ● 近年では、求職者の子どもの低年齢化が進んでいる。 ● ハローワークプラザ名張では、足で稼ぎながら求人開拓もしている。（例：小さな商店、福祉関連） ● 保育所の定員枠については、施設整備を進めて待機児童の解消にはつながっているが、母親が求めているのは、預けたいタイミングで預けられることである。仕事你先か、保育所の入所が先か。お互いにお互いが決まらないと進まないという悩みを母親からよく聞く。 ● 都市部から移住してきた人はパーパードライバーが多い。パーパードライバー講習に対する補助などがあればよい。 ● 通勤時間の希望は子どもの年齢にもよるが20～30分以内であれば許容範囲。 	



調査結果を踏まえた今後の検討方針	<p>○調査結果の分析（過去の調査結果や傾向との比較等）を踏まえて記載する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担当者の感覚では、名張は伊賀市に比べ就労先が少ないが、求職者の低年齢化にも見られるように就労希望の人は多いと感じている。また、就職先の開拓をハローワークとしては注力している。 ● 保育所等に子どもを預ける枠を広げることも重要であるが、預けたいとき（就労先が決まった時）にすぐに預けられる環境の構築の方がさらに重要。
------------------	--

実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 枚につき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	市内出身の大学生に対しヒアリング
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	社会減の大部分を占める若年層が市外へ転出した後に名張に帰ってこない一因は、名張の就職情報が手に入りにくいからではないか。
	対象	市内出身の大学生
	実施時期	10/25
	調査方法	市内出身の大学生へのヒアリング
	調査項目	市外の大学等において名張市の求人情報が手に入りやすいのか
調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <p>【以下ヒアリング結果】 求人情報の取得方法は主に以下の2つが多い。</p> <p>①就職情報サイト 就職情報サイトで業種やエリアを絞って調べるが、「名張市」で検索しても情報が少ない（サイトA：3社、サイトB：11社）しかも、複数ある営業所のうちの1つに名張市が含まれていることが多い。本社は別にあるので地元で就職したい人は本当に名張で就職できるか不安に感じている。</p> <p>②大学のキャリアサポートからの情報 大学が各都道府県や市区町村のインターンシップなどの情報を提供してくれるのでそこから応募する。しかし、近畿、北陸などの情報が多く三重はまだ1件しかみることがない。 名張から奈良、大阪、愛知の大学に行っている人はたくさんいるのでそのあたりの大学に情報を出していくのがよいのでは？</p> <p>○就職先がないというイメージが先行 就職情報サイトや大学から情報がなければそれ以上はないと思う人が多いと思う</p> <p>○名張でキラキラ働けるイメージができてない 名張に活気がない感じがするからなのか工場が多いのは知っているけどそこで何が作られているのかわからないからなのか？</p>	



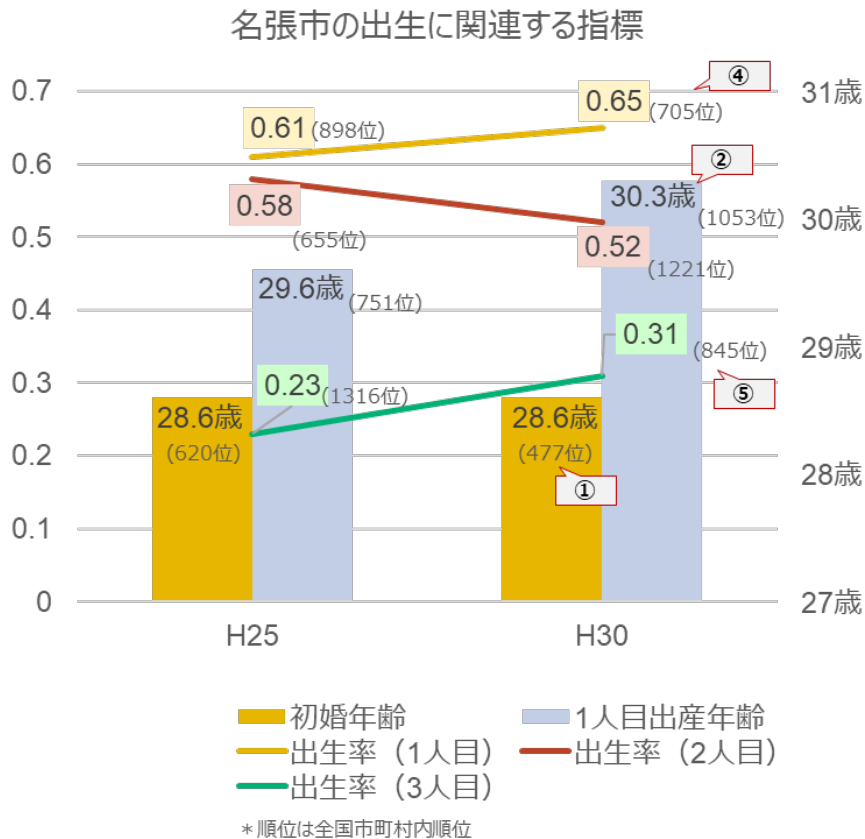
調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<p>○調査結果の分析（過去の調査結果や傾向との比較等）を踏まえて記載する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 働く場を作る（企業誘致）も重要であるが、それ以上に大学生等に対し、名張にどのような企業があり、どのような人を求めているのかといった情報が十分に渡っていない傾向が見える。 ● 大学生がどのようなところから情報を取得しているのかを把握した上で、行政や企業がそこにアプローチしていくことが重要である。
----------------------	---

STEP 4 地域の強み・課題の分析

調査結果を踏まえた仮説の深掘り

- ✓ 調査結果の分析をもとに、STEP2で作成した出生に関連する指標の要因仮説の記載内容を更新する

①一人目を生んだ働くお母さんやその家族が、子育てを楽しみながら二人目・三人目を生むことに踏み切るにはどうすればよいか？



<出生に関連する指標の特徴>

- ①比較的若くに結婚している
 - ②第1子出産年齢は高め
 - ③2人目出生率は低め（下がっている）
 - ④1人目の出生率は中位（やや上がっている）
 - ⑤3人目の出生率は中位（上がっている）
- ※3人目PJの成果？

<関連する地域評価指標>

- ・通勤時間が長め（→市外通勤が多い）
- ・三世帯同居率が低め
- ・学童利用率が高い（料金も高め）
- ・ファミサポ数が少ない（料金も高め）
- ・女性労働力率は偏差値は低いですが、20-44歳では74.2%働く

※保育所等利用児童割合・待機児童割合は低いですが、平成28年度は保育所整備中。今は待機児童ゼロ。

<ペルソナ像>

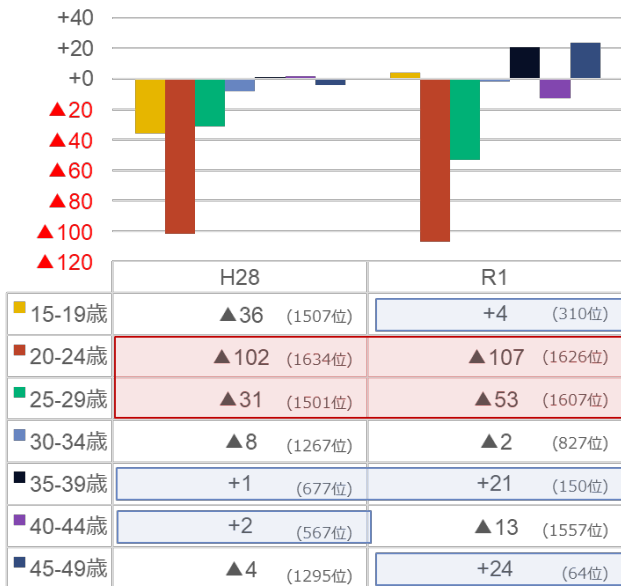
- 働くお母さん（子ども1人）
 - ・夫が市外勤務、親は近くにいない
 - ・学童利用料は高い、習い事が多い（？）、お金がかかる
 - ・自分も働き、家事は大変、支援が手薄、夕方がカオス！
- 「1人目だけで大変、2人目に踏み切れない」
- DINKS（既婚・子なし）
 - ・周りの先輩ママは大変そう、稼げるときに稼がないと！
- 「1人目出産はまだ先にしよう」

調査結果を踏まえた仮説の深掘り

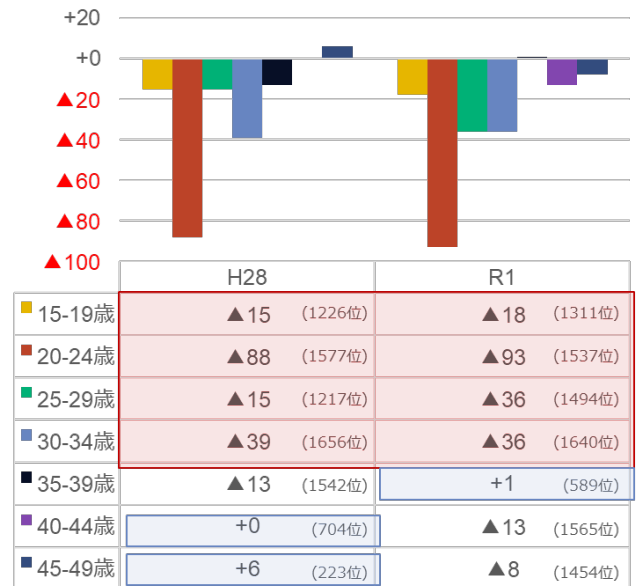
- ✓ 調査結果の分析をもとに、STEP2で作成した出生に関連する指標の要因仮説の記載内容を更新する

②名張を選んで転入してくる親の子供が、名張に住み続けたい、将来名張に戻りたいと思う・戻ってくるにはどうすればよいか？

名張市の転入超過数（男性）



名張市の転入超過数（女性）



* 順位は全国市町村内順位

※データは掲載していないが、15歳未満のH26以降、転入超過が続いている

<主な特徴>

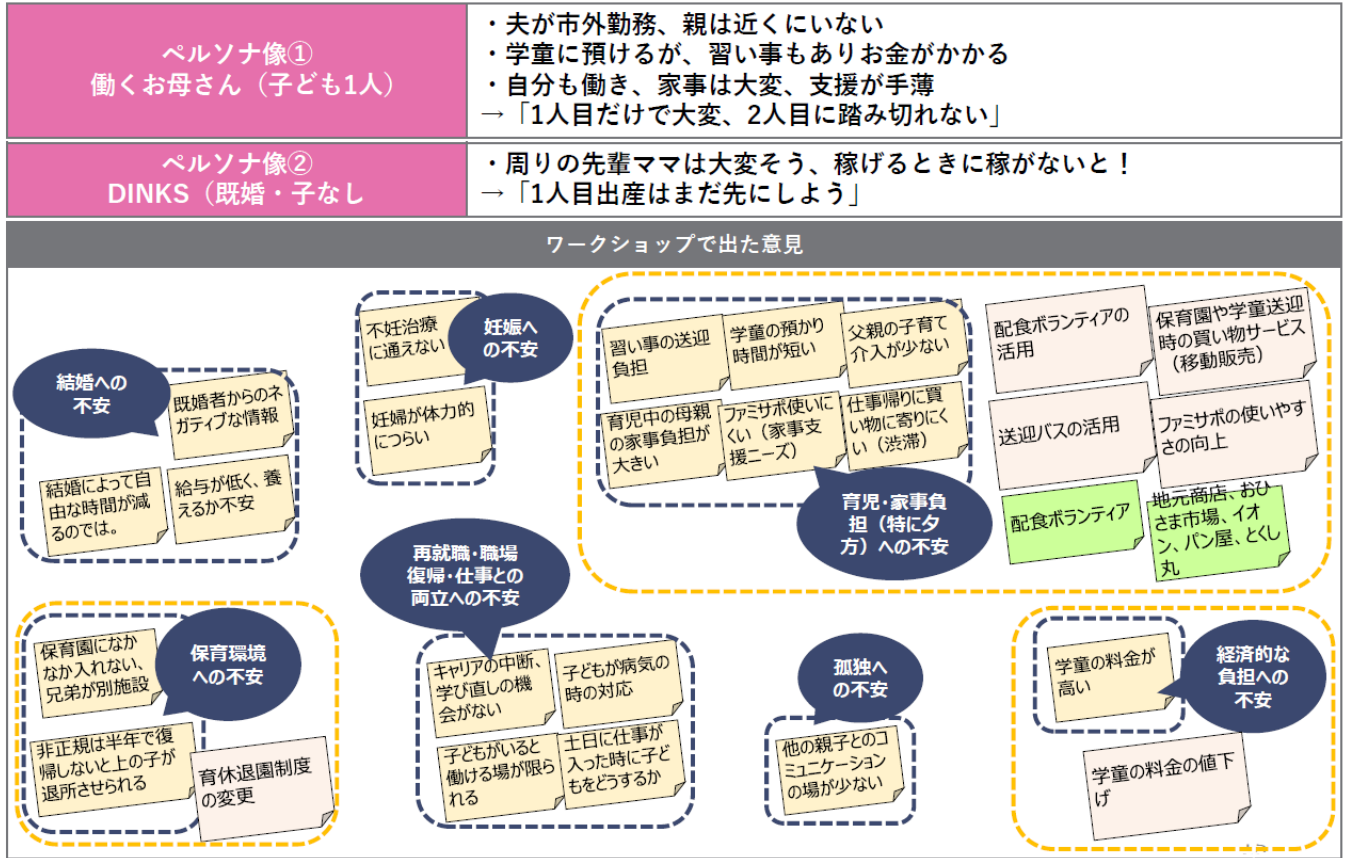
- ・子育て世帯が転入している（特に伊賀から転入←伊賀は三世帯同居率が高く、持ち家率が低い。）
 - ・電車の便が良い（津、大阪に行けるので、通勤にも通学にも便利。行ける高校・職場の選択肢が広がる）
- 20代は市外に出るが（恐らく就職）、子を持つ親は名張を**選んで転入**してきている（Uターン？Iターン？）。
- ※これまで出た意見→学生は就職先がないと思っている（親の影響もある？）。高専による市内企業との座談会は好評。等

4-2 資源や強みに目を向けながら、地域住民の実態や理想像の素案をつくる

地域住民の実態と理想像についてアイデアを出し合う

- ✓ これまでの調査結果を踏まえ、ライフステージごとの地域住民の実態と理想像の整理に加え、様々な分野の資源・強みのアイデアを出し合う

《自然増減》



《社会増減》

<p>地元への愛着</p>	<p>地元への愛着があればあるほど、名張市に住み続けよう、戻ってこようと思う気持ちが大きくなる。</p>
<p>「暮らす」と「働く」</p>	<p>名張で暮らし、働くことのイメージをどのように伝えるか。市外に一度出た人に対し、自分がしたいことが実現できる名張のポテンシャルを発信する。</p>

ワークショップで出た意見



STEP 5 対応策の検討

対応策のアイデアの整理

- ✓ 既存施策と都道府県・国で実施している事業を踏まえて、STEP4で整理した地域住民の実態と理想像（ペルソナ像）ごとに、取り組めそうな対応策のアイデア出しを行い、活用できる既存の事業と並べて新規の取組の案を整理する

①一人目を生んだ働くお母さんやその家族が、子育てを楽しみながら二人目・三人目を生むことに踏み切るにはどうすればよいか？

ペルソナ像① 働くお母さん（子ども1人）

- ・夫が市外勤務、親は近くにいない
 - ・学童利用料は高い、習い事が多い（？）、お金がかかる
 - ・自分も働き、家事は大変、支援が手薄
- 「1人目だけで大変、2人目に踏み切れない」

ペルソナ像② DINKS（既婚・子なし）

- ・周りの先輩ママは大変そう、稼げるときに稼がないと！
- 「1人目出産はまだ先にしよう」

No	解決したいペルソナ像が抱えている課題	課題解決に向けた方向性	アイデア
1	保育園の迎えの時間帯が忙しい。 迎えに行き買い物に行くということがストレス。 （道路が渋滞しててなおさら）	買い物負担の軽減	<p><アイデア・方向性> 学童や保育園の夕方の迎えの時間帯に合わせて、キッチンカーの様な移動販売車に保育園等の近くへ来て販売してもらう。</p> <p><効果> 家事負担軽減、店舗側の売上増加と新規顧客の獲得、ママ友とのコミュニケーションの場の創出、栄養価の高い食事を提供できる、フードロス対策</p>
2	父親は仕事が忙しく（通勤時間も長く）、家事・育児に関わる機会が少なく、母は孤独な子育て。夫に対する愚痴が減っていない気がする。	父親の存在を最大限生かす。（父親の育児参加促進）無理強ひせずに進んで育児に参加できるしくみ。（育児は家事だけでなく子どもと遊ぶことも育児！） 地域まるごとで子育て	<p>①パパと子どもが遊んでいるモデルを示す。 ・遊ぶ方は子どもに流行りを教えてもらう。 ・それを子ども自身が発信。 ⇒動画配信者になりきり。「名張感動」とコラボ。</p> <p>②青年会議所でこそだてサポーター養成講座を実施しており、事業所単位でもできないか。</p> <p>③母子手帳発行教室でパパ向けの内容を増やす。</p> <p>④授業参観時に「包括的性教育」</p> <p>※ママの普段の子育てを頑張っていることに対してパパ、双方が感謝できるしくみ盛り込む。</p>
3	<学童> ・保育所の預かり時間に対し、学童保育の預かり時間が短い（18時）ため、子どもが小学校入学とともに働き方を見直さないといけない。 ・夏休み等長期休みの際の弁当を作る負担。	学童ごとに対応などが異なる中、保護者の負担軽減を図れないか。	<p>【学童での弁当発注システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美旗小では夏季・冬季休暇時に週2～3回学童が弁当を発注してくれている。 ・費用は、親子遠足が中止になったなどで浮いた経費で賄っているため、保護者負担ゼロ。 <p>⇒多少保護者の負担があったとしても週5弁当を望んでいる家庭もあるのではないか。他の小学校でも学童が弁当を発注するしくみを作れないか。</p>

対応策のアイデアの整理

- ✓ 既存施策と都道府県・国で実施している事業を踏まえて、STEP4で整理した地域住民の実態と理想像（ペルソナ像）ごとに、取り組めそうな対応策のアイデア出しを行い、活用できる既存の事業と並べて新規の取組の案を整理する

②名張を選んで転入してくる親の子供が、名張に住み続けたい、将来名張に戻りたいと思う・戻ってくるにはどうすればよいか？

地元への愛着	地元への愛着があればあるほど、名張市に住み続けよう、戻ってこようと思う気持ちが大きくなる。
---------------	--

No	ペルソナ像	課題解決に向けたアイデア	
		低	⇔ まちへの関与意欲 ⇔
①	市内の高校に通う高校生	<p>ゆるーく。無意識。受身。じわじわ。ふーん。</p> <p>案1 [②③のうち、市外に転出する人] 名張の情報を受け取れるしくみ。 ⇒細かい行政情報ではなく、SNSなど名張の風景やイベントなどを視覚的に名張の意識付ける。 ⇒転出届時にインスタ情報のチラシを配る。</p> <p>案2 [②③のうち名張から通学してる人] 市内中学生のうち、半数は市外の高校に進学している。←名張市の特徴 【共通】近鉄電車（電車の中ではスマホを見るか、寝るかの2択）</p> <p>案3 [②③のうち住民票を動かさず市外に転出してる人]</p>	<p>案1「チーム若」 ・大学生発案の若者の集まり。今年度中に立ち上げたい。 ⇒キッズサポーターや各地域づくり組織等を取り組んでいる取組に参加している子たちをうまくチーム若につなげられないか。（まちに関わり続けるしくみ。）</p> <p>案2「名張学園祭」 ・②の状態になるとなかなか名張とのつながりを作るのは難しい。 ⇒中学3年生に向けて、実行委員会参加募集の案内をする。</p> <p>案3「成人式での告知」 ・上記案など、まちに関わるきっかけになる事柄について、成人式でPRする。</p>
②	市外の高校に通う高校生		
③	市外の学校に通う大学生等		
④	①～③に将来なり得る小中学生	<p>案4「地域とのつながり」 ・百合子どもクラブ、YORIAI、つつじが丘ギルトなど地域子どものつながり創出事例の横展開。 ・高齢者対象の生活支援事業に子どもが体験で関わる。</p>	

対応策のアイデアの整理

- ✓ 既存施策と都道府県・国で実施している事業を踏まえて、STEP4で整理した地域住民の実態と理想像（ペルソナ像）ごとに、取り組めそうな対応策のアイデア出しを行い、活用できる既存の事業と並べて新規の取組の案を整理する

②名張を選んで転入してくる親の子供が、名張に住み続けたい、将来名張に戻りたいと思う・戻ってくるにはどうすればよいか？

「暮らす」と「働く」		名張で暮らし、働くことのイメージをどのように伝えるか。市外に一度出た人に対し、自分がしたいことが実現できる名張のポテンシャルを発信する。	
No	ペルソナ像	就職に係る課題、市内企業に関する認識	課題解決に向けたアイデア
①	市内の高校に通う高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望の人は就職のことまで考えていない。 (名張高校) ・就職希望の人を対象としたジャンルの異なる企業見学ツアー ・系列ごとに関連のある企業と連携した取組 (名張青峰高校) ・基本的に進学系の高校のため、就職に関して地元企業を関わるような取組はしていない。(できればしたいと思っているが…) 	(名張青峰高校) 1月下旬にアプローチ。 ⇨次年度からキャリア教育として2年生を対象に市内で働く人から働き方を学ぶ授業実施に向けて検討。
②	市外の高校に通う高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望の人は就職のことまで考えていない。 ・就職希望の場合、名張市の就職情報が見つかるかどうか。 	アプローチ難しい。地元への愛着醸成に注力！
③	市外の学校に通う大学生等（地元就職意向）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンや企業説明が十分にされていない ・地元どんな企業があるのか知らない ・都市部の方が働き口が多い ・工場のイメージが強く働きたいとは思わない 	新卒で市内就職は事業者数も都市部に比べて限られるため、むしろ都市部で一度就職して結婚、子育てなどライフステージが進む中、セカンドキャリアとして名張に戻ってこれるような仕掛けが必要では。 【地域資源】 ・フミダス、利便性の良さ（暮らすと働く）、テレワーク施設、起業・創業、近大高専
④	市外の学校に通う大学生等（都市部就職意向）	<ul style="list-style-type: none"> ⇒就職情報サイトは広告費が高い！ 	⇒どのように名張出身者含め都市部の人にアプローチするか。高校生、大学生の時から「ゆくゆくは名張に帰って働こう」の意識を与えるには。
⑤	①～④に将来なり得る小中学生	(小学生) <ul style="list-style-type: none"> ・名張学（座学だけでなく、地元企業の企業見学も実施） (中学生) <ul style="list-style-type: none"> ・名張学、職場体験、働く人から学ぶ会 	

STEP 6 対応策の実行

事業の効果検証と改善策の検討を行う

- ✓ 実施する事業についての効果の検証とそれを踏まえた改善策の検討を行うことで、より効果の高い内容へブラッシュアップする

対応策の名称	保育園や学童の送迎時における民間事業者によるお惣菜やお弁当の販売	
対象者像	学童利用児及び保育園利用児の保護者	
現状・課題認識	現状 夕方は子どもを迎えに行ってから、買い物に行く。夕方は道が混雑している。	課題 夕方の家事が多い中、夕方の（子どもを連れての）買い物は道も混んでおり、負担が大きい。
実施する事業 (課題解決との関係性)	保育園や学童の送迎時における民間事業者によるお惣菜やお弁当の販売	
事業の内容	学童や保育園の夕方の迎えの時間帯に合わせて、移動販売車に保育園等の近くへ来て販売してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> 2地域で実証実験を行う。 実施時にアンケートを実施し、効果検証を行い、事業継続等について検討する。 	
事業実施による目標 ・期待する成果	<ul style="list-style-type: none"> 家事負担軽減 栄養価の高い食事の提供 ママ友とのコミュニケーションの場の創出 フードロス対策 事業者側の売上増加と新規顧客の獲得 	
成果指標 (KPI)	当事業に対し、「助かる」と回答した人の割合	



実証事業の内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 協力事業者：地元企業 令和5年1月に2地域で計4日間実施。 時間帯は、学童・保育園の夕方のお迎えの時間帯である16時～18時頃で実施。 お弁当だけでなく、ちょっとしたお惣菜も用意。 子どもたちも興味本位で集まり出し、コミュニティの場にもなった。 アンケートを実施することにより、当事業への評価や普段の家事の困りごとについて、ニーズを集めることができた。
検証で得られた成果 (事業の効果、課題点等)	<p>当事業に対し「助かる」と回答した人の割合は88%であり、ニーズにマッチした取組であった。</p> <p>価格帯については、「高い」と回答した人が多いため、もう少しリーズナブルな商品が必要。</p> <p>あらかじめどんな商品が販売されるのか知りたい、子ども向きのメニューも欲しいという声もあった。</p>
事業の改善点/ 継続可否の見通し	上記の成果や課題等については、改善の余地あり。民間主体の取組として、継続できるように地域団体等へ働きかけを行う必要がある。
今後必要なタスク	<p>当事業結果等を地域団体へ伝え、自走化に向けて取り組む。</p> <p>普段の家事の困りごとに関するアンケート結果を踏まえた次年度以降の取組を検討する。</p>